

埼玉学園大学・川口短期大学 機関リポジトリ

<Note> The effects of perceived reality toward television news and popular talk shows on college students' view of the world.

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-08-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山下, 玲子 メールアドレス: 所属:
URL	https://saigaku.repo.nii.ac.jp/records/991

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



テレビニュースおよびワイドショーに対する リアリティ知覚が大学生の世界観に及ぼす影響について

The effects of perceived reality toward television news and
popular talk shows on college students' view of the world.

山下 玲子

YAMASHITA, Reiko

問 題

本研究は、テレビ視聴が若者の世界観に及ぼす影響について、テレビニュースに対するリアリティ知覚の観点から検討することを目的としたものである。世の中でこれまでに例のないような凶悪犯罪が起こると、メディアの影響が取りざたされることがしばしばある。特に、テレビやビデオ、テレビゲームといった映像メディアの影響は、そのリアルさゆえに影響が甚大であるという批判が常々なされてきた。しかし、それらの発言は実証研究に基づくものであることは稀で、評論家やタレントなどによる場当たりの発言であることが多い。そのような通俗的な批判に対する実証の一つとして著者はこれまで、日本の若者のテレビ視聴と犯罪被害の推定との関係について検討を行ってきた。特に、テレビ視聴が及ぼす影響は、テレビ視聴量もさることながら、テレビに対してどの程度リアリティを抱いているかが関係するというPotter (1986)の主張をもとに、テレビの視聴量やテレビに対するリアリティの知覚と犯罪被害の推定と

の関係を検討してきた。

これまでの研究の知見をここで簡単にまとめてみる。まず、Potter (1986)では、高校生と大学生を対象にテレビの視聴量及び主にドラマに対するリアリティ知覚と犯罪被害や特定の死亡原因の推定との関連性を検討した。その結果、テレビの視聴量は犯罪被害や特定の死亡原因の推定とほとんど関連がなかったが、リアリティ知覚は、全体的に見ると犯罪被害や特定の死亡原因の推定に負の方向で効果をもつ傾向が見られ、特にそれは大学生でテレビは世の中を忠実に映し出す「魔法の窓」である(「魔法の窓」的リアリティ)と考える者において顕著であった。しかし、調査対象者をテレビ視聴量の高低で分けた場合、テレビ視聴量が多い者では逆の傾向が見られることが示された。山下(2001)では、Potter (1986)の研究をもとに、中学生と大学生を対象としたフィクション番組(主にドラマ)に対するリアリティ知覚と犯罪被害との推定との関連性を検討した。その結果、中学生も大学生もテレビに対するリアリティは低いが、実生活への有用性や番組の登場人物に対する

キーワード：テレビニュース、ワイドショー、リアリティ知覚、世界観

Key words : television news, popular talk shows, perceived reality, view of the world

共感性は年長である大学生の方が高いことが示された。また、フィクション番組に対して「魔法の窓」的リアリティを知覚しているの方が総じて犯罪被害を低く見積もる傾向も見られた。さらに、山下（2003）では、フィクション番組よりも、より犯罪をリアルに伝えると思われるテレビニュース（以下「ニュース」）に着目し、それに対するリアリティを測定する尺度を独自に作成した。そして、ニュースに対するリアリティ知覚と犯罪被害の推定との関連性を検討した。その結果、有意差が見られた項目は多くなかったが、ニュースに対して「魔法の窓」的リアリティを知覚しているの方が総じて犯罪被害を低く見積もり、習慣的にニュースを視聴しているの方が犯罪被害を高く見積もるという傾向が示された。しかしながら山下（2003）では、ニュースのリアリティ知覚に関する尺度項目中にニュースに対するリアリティ知覚とニュースに対する態度、行動の側面が混在していた。また、ニュースが現実を反映する度合いの評価について、その方向性（報道量の多寡）を不問にしていた。そのため、ニュースに対するリアリティ知覚を正確に把握できていない可能性があった。また、犯罪被害の推定方法を1000人あたりの人数の推定値を自由記述してもらった形にしたため、1000人を係留点とした回答になった可能性も示唆された。

そこで本研究では、これらの知見をもとに、テレビ視聴量及びニュースに対するリアリティ知覚と犯罪被害の推定との関連性について、大学生を対象としてさらに検討を行った。本研究での新たな試みは以下の3点である。第一は、ニュースに対するリアリティ知覚の尺度項目をより洗練し、さらにニュースにおける犯罪の報道量の多寡を問う項目を追加し

た。第二に、犯罪被害の推定値の回答方法を自由記述から選択式とし、一定の数値が係留点とならないように留意した。第三に、ニュースと同様に、犯罪をテーマとして多く扱うがやや娯楽色が強いワイドショーについても、ニュースと同様のリアリティ知覚及び犯罪報道量の多寡について尋ね、犯罪被害の推定との関連性を検討した。

方 法

調査対象者：東京都内私立大学及び埼玉県内私立大学生416名(男171名、女232名、不明13名、18歳～29歳)

質 問 紙：Potter(1986)、山下(2001、2003)を参考に独自に作成。質問項目は、以下の通り。

- (1) テレビ視聴時間：1日当たりのテレビ視聴時間(平日、土曜日、日曜・休日)、10ジャンルのテレビ番組それぞれ1週間当たりの視聴時間。
- (2) テレビ視聴の理由：テレビを見る主な理由を12項目のうち当てはまるもの全てを選択。
- (3) テレビ視聴におけるリアリティ知覚：山下(2003)を基に、独自に作成した10項目のニュース及びワイドショーに対するリアリティ知覚尺度(表1、2参照)。そのうち2項目は、犯罪報道の多寡を問う項目。
- (4) 犯罪被害の推定：世の中における犯罪被害の知覚に関する質問。犯罪被害の知覚は、日本における昨年1年間の殺人、強盗、強姦、交通事故、暴力事件、放火、児童虐待、少年犯罪(全体、強盗、殺人)の発生件数を5件法で推定。
- (5) フェイスシート及びダミー項目。

結 果

(1) ニュース及びワイドショーに対するリアリティ知覚尺度の因子分析結果

ニュース及びワイドショーに対するリアリティ知覚10項目のうち、犯罪報道の多寡の方向性を問う2項目を抜いた8項目に対して主因子法により因子分析を行った結果、両方において2因子が抽出され、因子を構成する項目も同じであった。それぞれの因子を「信頼性」(5項目)、「好意/習慣」(3項目)と命名した(表1、2参照)。

(2) 全体的な犯罪被害の推定傾向について

殺人、強盗、強姦、交通事故、暴力事件、放火、児童虐待、少年犯罪全体、少年による

強盗、少年による殺人それぞれの実測値に最も近い選択肢を選んだ割合は25.0%～47.4%の範囲であった。^{注1)}それらは、暴力事件、放火、少年による強盗以外全て各項目の最頻値であり、放火と少年による強盗では、2番目の頻度でかつ最頻値は直近の選択肢であった。従って、調査対象者の犯罪被害の推定は全体的には現実から著しく隔たっていなかった。ただし、暴力事件のみ、現実より高く推定する率が高かった(図1参照)。

(3) 犯罪被害推定に及ぼすテレビ視聴及びリアリティ知覚の影響について

各犯罪被害の推定値を従属変数、テレビ視聴量(平日、土曜日、休日)、ニュースの視聴量、ニュースに対する信頼性、ニュースに対

表1 ニュースに対するリアリティ知覚尺度の因子分析結果

	信頼性	習慣・好意
(7) テレビニュースは真実のみを報道している。	.755	-.197
(2) テレビニュースは現実世界を忠実に映し出している。	.745	.000
(9) テレビニュースは公平だ。	.742	-.269
(4) テレビニュースは信頼できる。	.714	.167
(8) テレビニュースは客観的だ。	.642	-.275
(3) テレビニュースを見るのが好きだ。	.210	.826
(1) テレビニュースを習慣的に見ている。	.136	.818
(6) テレビニュースを見ることで、他者と共通の話題を得ている。	.174	.450
固有値	2.69	1.77
寄与率(%)	33.62	22.16

表2 ワイドショーに対するリアリティ知覚尺度の因子分析結果

	信頼性	習慣・好意
(9) ワイドショーは公平だ。	.772	-.380
(7) ワイドショーは真実のみを報道している。	.750	-.415
(8) ワイドショーは客観的だ。	.733	-.284
(4) ワイドショーは信頼できる。	.701	-.180
(2) ワイドショーは現実世界を忠実に映し出している。	.691	.000
(3) ワイドショーを見るのが好きだ。	.542	.693
(1) ワイドショーを習慣的に見ている。	.542	.656
(6) ワイドショーを見ることで、他者と共通の話題を得ている。	.438	.615
固有値	3.41	1.72
寄与率(%)	42.66	21.52

する好意／習慣、ワイドショーに対する信頼性、ワイドショーに対する好意／習慣を独立変数として、重回帰分析を行った(表3参照)。その結果、少年による殺人で回帰係数Rが有意水準5%で有意であり、交通事故、暴力事件、少年による強盗で有意水準10%で有意な傾向が見られた。個々に見た場合、ニュースへの信頼性は、少年による強盗、少年による殺人において有意水準1%、殺人で有意水準5%で効果が見られた。また、強盗、暴力事件で有意水準10%で効果が見られる傾向があった。これらの効果の方向性は負であり、これ以外のすべての犯罪被害の推定においてもニュースへの信頼性の符号は負であっ

た。その他には、暴力事件における休日のテレビ視聴量、交通事故におけるワイドショーへの信頼性、少年による強盗におけるワイドショーへの信頼性で有意水準5%で効果があり、強姦におけるワイドショーへの好意／習慣、交通事故と暴力事件におけるニュース視聴時間で有意水準10%で効果が見られる傾向があった。全体としてみると、犯罪被害の推定にニュースへの信頼性以外は、効果の一貫した傾向は見られなかった。

この結果は、テレビに対する「魔法の窓」的リアリティが高い者ほど犯罪被害を低く見積もる、というこれまでの結果を踏襲する形となった。しかし、これは数多くの犯罪を報

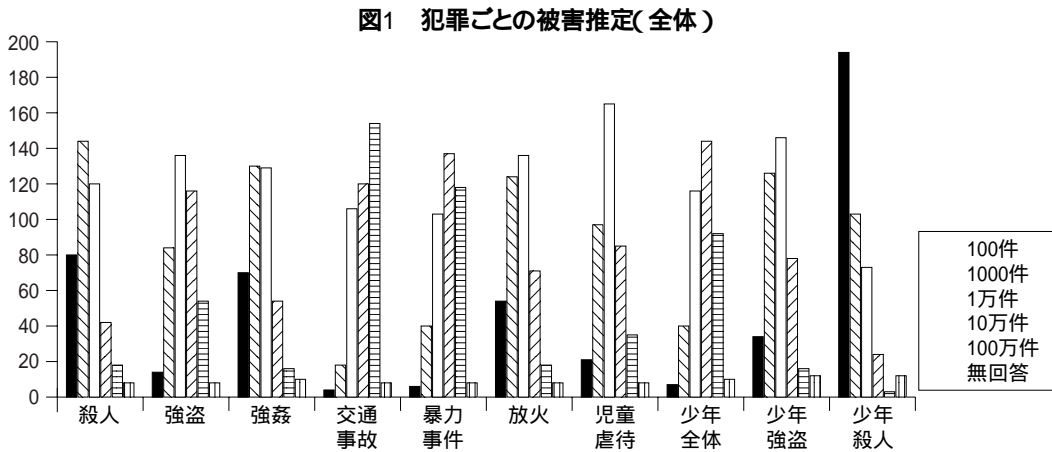


表3 犯罪推定に対する重回帰分析結果(標準化係数)

	平日	土曜日	休日	ニュース視聴	ニュース信頼	ニュース好意	ワイド信頼	ワイド好意	R
殺人	.015	-.066	.076	.016	-.157*	-.029	.080	.076	.157
強盗	.064	-.043	-.048	.057	-.121+	-.012	-.013	.096	.159
強姦	.110	-.020	-.057	.048	-.049	-.068	-.008	.114+	.140
交通事故	.019	-.052	.101	.095+	-.026	-.046	-.137*	.030	.186+
暴力事件	-.015	-.150	.237*	.097+	-.118+	-.029	-.018	.012	.199+
放火	-.009	.068	.037	.063	-.032	-.046	-.033	.039	.134
児童虐待	.127	-.004	-.145	-.001	-.046	-.058	.061	.027	.117
少年全体	-.111	.077	.016	-.047	-.062	.031	.037	.030	.105
少年強盗	.033	.061	.025	.012	-.200**	.039	.162*	-.031	.193+
少年殺人	.001	.180	-.093	-.051	-.213**	.012	.158	.016	.205*

テレビニュースおよびワイドショーに対するリアリティ知覚が大学生の世界観に及ぼす影響について

道しているニュースを信頼する者ほど世の中の犯罪被害を少ないと認知していることになり、直観に反する結果である。そこで、ニュースに対する信頼性がいかに形成されているか、探索的に分析を行った。まず、ニュースに対する信頼性がテレビの総視聴量やニュースに対する好意/習慣、ワイドショーに対する信頼性、好意/習慣とどのように関連しているか、相関係数を計算した(表4参照)。その結果、ニュースに対する信頼性とニュースに対する好意/習慣とは相関がなかった。また、ニュースに対する好意/習慣とワイドショーに対する信頼性とは、相関がなかった。それ以外の変数の間には、有意水準1~5%で有意な正の相関が見られた。このことより、ニュースを信頼している人は、

必ずしもニュースを好んだり、習慣的に見たりするわけではない可能性が示された。

そこで、ニュースに対する信頼性とジャンルごとのテレビ視聴量との相関係数を計算した(表5参照)。その結果、ニュース/ドキュメンタリー/ワイドショーの視聴量とニュースに対する信頼性とは相関がなかった。また、ニュースに対する信頼性と有意な正の相関があったジャンルは、歌番組/音楽番組($p<.01$)、時代劇及びアクションもの/刑事もの以外のドラマ、お笑い番組/バラエティ(いずれも $p<.05$)であった。この結果より、ニュースに対する信頼性が高い者は、いわゆるトレンドドラマやバラエティ、歌や音楽番組といったフィクション番組や娯楽番組を多く視聴していることが示された。

表4 視聴時間およびニュース/ワイドショーに対するリアリティ知覚の相関

	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.
1. 平日	1.00						
2. 土曜日	.830**	1.00					
3. 休日	.780**	.878**	1.00				
4. ニュース信頼	.150**	.157**	.133*	1.00			
5. ニュース好意	.196**	.158**	.129**	.083	1.00		
6. ワイド信頼	.114*	.138**	.139**	.594**	-.075	1.00	
7. ワイド好意	.234**	.294**	.287**	.139**	.264**	.292**	1.00

表5 ニュースに対する信頼性およびジャンルごとのテレビ視聴時間の相関

	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.	9.	10.	11.	12.	13.
1. ニュース信頼	1.00												
2. 時代劇	.037	1.00											
3. 現代劇	.109*	.093	1.00										
4. 刑事もの	.034	.029	-.005	1.00									
5. お笑い	.134*	.071	.177*	-.061	1.00								
6. ニュース	.089	.063	.101*	.051	.455**	1.00							
7. スポーツ	.043	.017	.040	-.067	.154**	.154**	1.00						
8. アニメ	.094	.098*	-.005	.066	.177**	.090	-.033	1.00					
9. クイズ	.060	.020	.158**	.040	.256**	.052	.185**	.192**	1.00				
10. 音楽	.192**	.121*	.353**	.013	.299**	.134**	.153**	.093	.236**	1.00			
11. 教育	-.021	.042	-.014	.046	.119*	.166**	.043	.115*	.063	.014	1.00		
12. 映画	.061	.063	.112*	.037	.112*	.124*	.076	.055	.120*	.134**	.185**	1.00	
13. その他	.052	.056	-.043	.203**	-.021	.143**	-.006	.055	.021	-.014	.166**	-.063	1.00

実際に、アクションもの／刑事もの以外のドラマ（以下「現代劇」）と歌番組／音楽番組（以下「音楽番組」）については、これらのジャンルの視聴者と非視聴者、お笑い番組／バラエティ（以下「バラエティ」）については、1週間のうちこのジャンルの視聴量が60分以内の者（低視聴者）とそれ以上の者（高視聴者）とで、ニュースに対する信頼性、好意／習慣、ワイドショーに対する信頼性、好意／習慣の平均値の差の検定を行った（表6参照）。その結果、現代劇では、ワイドショーに対する好意／習慣で有意水準0.1%、ワイドショーに対する信頼性で有意水準1%、ニュースに対する信頼性で有意水準5%で、現代劇の視聴者の方が非視聴者よりも得点が高かった。ニュースに対する好意／習慣では有意差は見られなかった。音楽番組では、ニュースに対する信頼性、ワイドショーに対する信頼性、ワイドショーに対する好意／習慣で有意水準0.1%以下で、音楽番組の視聴者の方が非視聴者よりも得点が高かった。ニュースに対する好意／習慣では有意差は見られなかった。バラエティでは、ワイドショーに対する好意／習慣で有意水準0.1%、ニュースに対する信頼性で有意水準1%、ワイドショーに対する信頼性で有意水準5%で、バラエティの高視聴者の方が低視聴者よりも得点が高かった。ニュースに対する好意／習慣でも有意水準10%で同様の傾向が見られた。このことから、

ニュースやワイドショーに対する信頼性、ワイドショーへの好意／習慣はこのようなフィクション番組や娯楽番組を多く視聴している者の方が高いことが裏付けられた。

さらに、これら3ジャンルの視聴者と非視聴者（バラエティは、高視聴者と低視聴者）とを分けて、ニュースに対する信頼性の高低（信頼性低群：ニュースに対する信頼性得点が10点以下、信頼性高群：ニュースに対する信頼性得点が15点以上）により犯罪被害の推定に差が見られるかどうか検討した（表7参照）。現代劇の場合、このジャンルの非視聴者では、ニュースに対する信頼性の高低により推定値の平均値に差が見られた項目は一つもなかった。また、平均値パターンを見た場合、一貫したパターンは見られなかった。それに対し、現代劇の視聴者では、交通事故で有意水準5%でニュースに対する信頼性低群の方が高群よりも件数を高く見積もっていた。また、暴力事件、少年による殺人で有意水準10%でニュースに対する信頼性低群の方が高群よりも件数を高く見積もる傾向があった。平均値パターンでは、すべての項目について、ニュースに対する信頼性低群の方が高群よりも件数を高く見積もっていた。音楽番組の場合、このジャンルの非視聴者では、有意水準10%でニュースに対する信頼性高群の方が低群よりも少年による犯罪全体の件数を高く見積もる傾向があった。それ以外の項目では有意差は見られなかった。この項目以外の平均値パ

表6 特定番組の視聴の有無(長短)によるニュース／ワイドショーに対するリアリティ知覚の平均値(SD)

	現代劇視聴有 (n=186)	現代劇視聴無 (n=217)	音楽番組視聴有 (n=163)	音楽番組視聴無 (n=237)	バラエティ視聴高 (n=245)	バラエティ視聴低 (n=160)
ニュース信頼	12.02(3.36)	11.24(3.47)	12.21(3.32)	10.81(3.40)	12.06(3.35)	11.05(3.49)
ニュース好意	10.95(2.29)	10.90(2.62)	10.91(2.29)	10.91(2.66)	11.08(2.26)	10.66(2.69)
ワイド信頼	9.98(3.59)	8.71(3.65)	9.95(3.72)	8.64(3.49)	9.73(3.54)	8.93(3.83)
ワイド好意	9.73(2.56)	7.65(3.26)	9.46(2.78)	7.77(3.24)	9.40(2.86)	7.83(3.17)

ターンを見ても、一貫したパターンは見られなかった。それに対し、音楽番組の視聴者では、交通事故で有意水準1%、強盗、暴力事件、少年による強盗、少年による殺人で有意水準5%でニュースに対する信頼性低群の方が高群よりも件数を高く見積もっていた。また、少年による犯罪全体で、有意水準10%でニュースに対する信頼性低群の方が高群よりも件数を高く見積もる傾向があった。平均値パターンを見ると、すべての項目について、ニュースに対する信頼性低群の方が高群よりも件数を高く見積もっていた。バラエティの場合、このジャンルの低視聴者は、強盗、交通事故、暴力事件、少年によ

る強盗で有意水準5%でニュースに対する信頼性低群の方が高群よりも件数を高く見積もっていた。また、強姦、放火で有意水準10%でニュースに対する信頼性低群の方が高群よりも件数を高く見積もっていた。平均値パターンを見ると、すべての項目において、ニュースに対する信頼性低群の方が高群よりも件数を高く見積もっていた。一方、バラエティの高視聴者では、有意差が見られた項目は一つもなかった。また、平均値パターンを見ても、一貫したパターンは見られなかった。このことより、ニュースの信頼性が低い者の方が犯罪被害の推定を低く見積もるという傾向は、特に現代劇、

表7 特定番組の視聴の有無(長短)およびニュースに対する信頼性の高低による犯罪被害の推定の平均値(SD)

	現代劇視聴無		音楽番組視聴無		バラエティ視聴低	
	ニュース信頼高 (n=32)	ニュース信頼低 (n=81)	ニュース信頼高 (n=27)	ニュース信頼低 (n=79)	ニュース信頼高 (n=31)	ニュース信頼低 (n=76)
殺人	2.34(1.18)	2.47(0.95)	2.26(1.06)	2.44(0.93)	2.32(0.83)	2.50(1.00)
強盗	3.13(0.94)	3.35(0.99)	3.22(0.80)	3.33(1.05)	2.84(0.97)	3.43(1.10)
強姦	2.53(1.11)	2.51(1.07)	2.41(0.97)	2.58(1.01)	2.19(0.95)	2.61(1.16)
交通事故	4.00(0.99)	3.88(1.01)	4.15(0.77)	4.01(0.97)	3.58(1.03)	4.07(1.00)
暴力事件	3.89(1.01)	3.78(0.87)	3.93(0.87)	3.86(1.11)	3.35(1.02)	3.89(1.11)
放火	2.72(1.02)	2.69(1.02)	2.52(0.85)	2.63(1.04)	2.26(0.82)	2.63(1.07)
児童虐待	3.22(1.16)	3.10(1.03)	2.96(0.85)	2.96(1.04)	2.77(1.15)	3.09(1.07)
少年全体	3.97(0.95)	3.81(0.88)	4.11(0.80)	3.74(0.94)	3.40(0.93)	3.71(0.94)
少年強盗	2.60(0.88)	2.79(0.94)	2.81(0.85)	2.76(0.90)	2.47(0.94)	2.92(0.95)
少年殺人	1.83(1.05)	1.86(0.95)	1.88(0.99)	1.76(0.92)	1.63(0.81)	1.87(0.96)

(表7 続き)

	現代劇視聴有		音楽番組視聴有		バラエティ視聴高	
	ニュース信頼高 (n=56)	ニュース信頼低 (n=71)	ニュース信頼高 (n=61)	ニュース信頼低 (n=74)	ニュース信頼高 (n=58)	ニュース信頼低 (n=77)
殺人	2.32(1.03)	2.56(1.26)	2.38(1.10)	2.61(1.27)	2.34(1.19)	2.55(1.21)
強盗	2.98(1.17)	3.31(1.13)	2.93(1.20)	3.36(1.07)	3.12(1.14)	3.25(1.02)
強姦	2.43(1.19)	2.58(1.01)	2.48(1.23)	2.53(1.08)	2.60(1.23)	2.49(0.91)
交通事故	3.75(1.12)	4.18(0.81)	3.62(1.14)	4.18(0.83)	3.91(1.08)	4.12(0.82)
暴力事件	3.54(1.17)	3.89(1.06)	3.48(1.13)	3.93(0.94)	3.76(1.08)	3.90(0.95)
放火	2.55(1.04)	2.66(1.09)	2.66(1.11)	2.74(1.07)	2.81(1.08)	2.74(1.04)
児童虐待	2.91(1.20)	3.06(0.94)	3.07(1.29)	3.21(0.91)	3.14(1.19)	3.08(0.90)
少年全体	3.45(0.88)	3.68(1.12)	3.44(0.91)	3.78(1.08)	3.77(0.91)	3.81(1.07)
少年強盗	2.65(1.02)	2.89(1.00)	2.58(1.02)	2.95(1.06)	2.73(0.98)	2.78(1.01)
少年殺人	1.65(0.91)	1.99(1.11)	1.68(0.95)	2.12(1.12)	1.79(1.04)	2.00(1.11)

音楽番組の視聴者、バラエティの低視聴者の間で強く見られる傾向であることが示唆された。

また、これら3ジャンルの視聴者と非視聴者（バラエティについては同様に高視聴者と低視聴者）との間で、ニュース/ワイドショーの報道量の多寡についての意見（ニュース/ワイドショーは犯罪を過剰に報道している、ニュース/ワイドショーで報道されている犯罪は氷山の一角にすぎない、のそれぞれ2項目）の平均値を比較したところ、現代劇の視聴者の方が非視聴者よりも、また、バラエティの高視聴者の方が低視聴者よりも、ニュースが犯罪を過剰に報道していると評価していた（それぞれ、 $t(358.40) = 2.15, p < .05$; $t(404) = 3.37, p < .01$, 表8参照）。また、現代劇の視聴者の方が非視聴者よりも、ニュースで報道されている犯罪は氷山の一角にすぎないと考えない傾向があった（ $t(403) = 1.76, p < .10$, 表8参照）。音楽番組の視聴の有無では、有意差が見られた項目はなかった。このことより、現代劇の視聴者、バラエティの高視聴者が、ニュースが犯罪を過剰に報道していると評価していることが示された。

(4) テレビ視聴の理由と犯罪被害の推定について

よく視聴するジャンルの違いにより、ニュースに対する信頼性や犯罪被害の推定に違いが見られることが示されたが、テレビを視聴する理

由は、視聴するジャンルの選択やテレビからの学習効果に影響を与えていると考えられる。そこで、テレビ視聴の理由の違いにより、犯罪被害の推定に差が見られるかどうか検討した。12項目それぞれの理由を選択した者としなかった者それぞれの犯罪被害の推定の平均値を示したのが表9である。その結果、視聴理由により何らかの差（もしくは差がある傾向）が見られた項目は、「世の中の出来事を知るため」、「友達づきあいの情報を得るため」、「気分転換のため」、「暇つぶしのため」、「あこがれのタレントやスポーツ選手を見るため」、「家族との交流のため」、「その他」の7つであった。そのうち、複数の項目で差が見られたものは、「世の中の出来事を知るため」、「暇つぶしのため」、「家族との交流のため」の3つであった。そこで、この3つの理由について、詳しく検討した。まず、視聴理由が「世の中の出来事を知るため」である者はそうでない者に比べ、有意水準5%で殺人、少年犯罪全体、少年による殺人の件数を低く見積もっていた。また、有意水準10%で少年による強盗の件数を低く見積もる傾向があった。平均値パターンを見ると、すべての項目において、この理由で視聴する者の方がそうでない者よりも件数を低く見積もっていた。次に、視聴理由が「暇つぶしのため」である者はそうでない者に比べ、有意水準5%で暴力事件の件数を高く見積もっていた。また、有意水準10%で強

表8 特定番組の視聴の有無(長短)によるニュース/ワイドショーに対する犯罪報道量の評価の平均値(SD)

	現代劇視聴有 (n=218)	現代劇視聴無 (n=187)	音楽番組視聴有 (n=242)	音楽番組視聴無 (n=164)	バラエティ視聴高 (n=246)	バラエティ視聴低 (n=160)
ニュース過剰	3.65(0.86)	3.44(1.05)	3.59(0.89)	3.51(1.05)	3.68(0.90)	3.37(1.02)
ニュース氷山	4.17(0.98)	4.34(0.99)	4.20(0.99)	4.31(0.99)	4.28(0.98)	4.20(1.01)
ワイド過剰	3.47(1.22)	3.27(1.37)	3.37(1.26)	3.40(1.36)	3.46(1.25)	3.27(1.36)
ワイド氷山	3.87(1.17)	3.86(1.34)	3.87(1.19)	3.85(1.35)	3.89(1.21)	3.81(1.31)

テレビニュースおよびワイドショーに対するリアリティ知覚が大学生の世界観に及ぼす影響について

姦、交通事故、少年による犯罪全体の件数を高く見積もっていた。平均値パターンを見ると、児童虐待、少年による殺人以外の8項目で、この理由で視聴する者の方がそうでない者よりも件数を高く見積もっていた。さらに、視聴理由が「家族との交流のため」の者はそうでない者

に比べ、有意水準5%で強盗、児童虐待の件数を高く見積もっていた。また、有意水準10%で交通事故、少年による強盗の件数を高く見積もる傾向が見られた。平均値パターンを見ると、殺人以外の9項目で、この理由で視聴する者の方がそうでない者よりも件数を高く見積もっていた。

表9 視聴理由による犯罪被害の推定の平均値(SD)

	世の中を知る		くつろぎ楽しむ		知識や教養		友達づきあい	
	有(n=310)	無(n=100)	有(n=320)	無(n=90)	有(n=122)	無(n=287)	有(n=25)	無(n=385)
殺人	2.39(1.04)	2.63(1.11)	2.42(1.09)	2.52(0.96)	2.39(1.12)	2.47(1.03)	2.54(1.35)	2.44(1.04)
強盗	3.27(1.04)	3.28(1.09)	3.28(1.04)	3.22(1.08)	3.25(1.06)	3.28(1.04)	3.08(1.18)	3.28(1.04)
強姦	2.54(1.05)	2.58(1.10)	2.54(1.07)	2.56(1.02)	2.63(1.10)	2.51(1.04)	2.58(1.10)	2.55(1.06)
交通事故	3.99(0.94)	4.02(1.01)	4.01(0.95)	3.98(0.96)	3.97(0.94)	4.01(0.97)	4.08(1.02)	3.99(0.95)
暴力事件	3.76(1.02)	3.88(1.01)	3.77(1.01)	3.87(1.06)	3.79(1.07)	3.79(1.00)	3.92(1.02)	3.78(1.02)
放火	2.68(1.07)	2.73(1.01)	2.69(1.06)	2.67(1.02)	2.66(1.14)	2.70(1.01)	2.79(1.18)	2.68(1.04)
児童虐待	2.99(0.99)	3.18(1.05)	3.03(1.01)	3.04(0.99)	3.00(1.04)	3.05(1.00)	3.38(1.06)	3.02(1.01)
少年全体	3.61(1.00)	3.88(0.97)	3.68(1.00)	3.62(0.98)	3.65(1.04)	3.68(0.98)	3.61(0.89)	3.68(1.01)
少年強盗	2.74(0.99)	2.95(0.96)	2.79(0.98)	2.76(1.01)	2.80(0.98)	2.78(0.99)	2.65(1.03)	2.80(0.98)
少年殺人	1.77(0.94)	2.05(1.07)	1.84(0.99)	1.84(0.98)	1.85(1.00)	1.84(0.98)	1.91(1.04)	1.84(0.98)

(表9 続き)

	気分転換		暇つぶし		あこがれのタレント		ドキドキワクワク	
	有(n=126)	無(n=284)	有(n=264)	無(n=146)	有(n=104)	無(n=306)	有(n=52)	無(n=358)
殺人	2.51(1.19)	2.41(0.99)	2.46(1.10)	2.42(0.99)	2.50(1.06)	2.42(1.06)	2.49(1.05)	2.44(1.06)
強盗	3.42(1.09)	3.21(1.03)	3.29(1.05)	3.24(1.04)	3.33(1.10)	3.25(1.03)	3.25(0.98)	3.28(1.06)
強姦	2.61(1.10)	2.52(1.04)	2.62(1.05)	2.41(1.06)	2.67(1.17)	2.51(1.02)	2.76(1.09)	2.52(1.05)
交通事故	4.07(0.93)	3.97(0.97)	4.06(0.91)	3.89(1.03)	3.98(0.93)	4.01(0.97)	3.99(0.97)	4.10(0.88)
暴力事件	3.83(0.95)	3.77(1.05)	3.89(0.97)	3.61(1.08)	3.89(0.93)	3.76(1.05)	3.88(0.99)	3.78(1.02)
放火	2.69(1.08)	2.69(1.04)	2.76(1.01)	2.57(1.11)	2.84(1.06)	2.63(1.04)	2.88(1.07)	2.66(1.05)
児童虐待	3.00(0.93)	3.05(1.05)	3.03(1.00)	3.04(1.04)	3.25(1.09)	2.96(0.97)	3.14(1.00)	3.02(1.01)
少年全体	3.63(0.99)	3.69(1.01)	3.74(1.00)	3.56(0.99)	3.77(0.94)	3.64(1.02)	3.71(0.91)	3.67(1.01)
少年強盗	2.69(0.93)	2.83(1.01)	2.83(0.97)	2.71(1.01)	2.88(0.99)	2.76(0.98)	2.90(0.90)	2.77(1.00)
少年殺人	1.83(1.00)	1.85(0.98)	1.82(0.98)	1.87(0.99)	1.98(1.06)	1.79(0.95)	1.86(1.14)	1.84(0.96)

(表9 続き)

	家族との交流		行動のモデル		人の生き方		その他	
	有(n=17)	無(n=393)	有(n=11)	無(n=399)	有(n=32)	無(n=378)	有(n=24)	無(n=386)
殺人	2.29(1.05)	2.45(1.06)	2.09(1.04)	2.45(1.06)	2.32(1.28)	2.45(1.04)	2.50(0.98)	2.44(1.06)
強盗	3.76(0.90)	3.25(1.05)	3.45(0.82)	3.27(1.05)	3.26(1.09)	3.27(1.05)	3.25(1.03)	3.27(1.05)
強姦	2.81(1.05)	2.54(1.06)	2.64(1.29)	2.55(1.05)	2.77(1.38)	2.53(1.03)	2.50(1.10)	2.55(1.06)
交通事故	4.41(0.80)	3.98(0.96)	4.18(0.98)	3.99(0.95)	4.10(0.91)	3.99(0.96)	4.08(0.88)	3.99(0.96)
暴力事件	4.00(1.12)	3.78(1.02)	4.18(0.87)	3.78(1.02)	4.03(0.91)	3.77(1.03)	3.83(0.92)	3.79(1.03)
放火	2.88(1.11)	2.68(1.05)	2.45(0.93)	2.69(1.06)	2.68(1.14)	2.69(1.05)	2.88(1.12)	2.68(1.05)
児童虐待	3.65(1.00)	3.01(1.00)	2.91(1.14)	3.04(1.01)	3.13(1.18)	3.03(1.00)	3.29(0.91)	3.02(1.02)
少年全体	3.88(1.05)	3.66(1.00)	3.64(1.03)	3.68(1.00)	3.80(0.92)	3.66(1.00)	3.67(1.09)	3.67(0.99)
少年強盗	3.18(0.95)	2.77(0.99)	2.64(0.81)	2.79(0.99)	2.87(0.94)	2.78(0.99)	2.38(1.01)	2.81(0.98)
少年殺人	1.94(1.09)	1.84(0.98)	1.36(0.67)	1.85(0.99)	1.83(0.91)	1.84(0.99)	1.58(0.88)	1.86(0.99)

(5) テレビ視聴の理由とニュース/ワイドショーに対するリアリティ知覚について

次に、テレビ視聴の理由の違いにより、ニュースやワイドショーに対する信頼性や好意/習慣に差が見られるかどうか検討した。12項目それぞれの理由を選択した者としなかった者のニュース/ワイドショーに対する信頼性及び好意/習慣の平均値を示したものが表10である。その結果、すべての項目に有意差または有意差のある傾向が見られた理由は、「くつろいだり楽しんだりするため」、「その他」であった。「くつろいだり楽しんだりするため」では、この理由で視聴する者の方がそうでない者よりも有意水準0.1%でニュースに対する信頼性、ワイドショーに対する信頼性、好意/習慣が高かった。また、同様に有意水準10%でニュースに対する好意/習慣が高い傾向が見られた。一方、「その他」を理由とする者では、くつろいだり楽しんだりするため視聴する者とは逆に、この理由で視聴しない者の方がすべての項目において得点が高くなっており、ニュースに対する好意/習慣、ワイドショーに対する信頼性、好意/習慣で有意水準5%で高く、ニュースに対する信頼性で有意水準10%で高い傾向が見られた。また、ニュースに対する好意/習慣のみに有意差または有意差のある傾向が見られた理由が「世の中の出来事を知るため」、「知識や教養を身につけるため」、「家族との交流のため」の3つで、いずれもこの理由で視聴する者の方がそうでない者よりもニュースに対する好意/習慣が高かった。「世の中の出来事を知るため」、「知識や教養を身につけるため」では有意水準0.1%、「家族との交流のため」では有意水準5%で有意差が見られた。他方、ニュースに対する好意/習慣以外の3

項目で有意差または有意差のある傾向が見られた理由も2つあり、それは「友達づきあいの情報を得るため」と「あこがれのタレントやスポーツ選手を見るため」であった。2つの理由どちらにおいても、またいずれの項目においても、この理由で視聴する者の方がそうでない者よりも得点が高くなっていった。「友達づきあいの情報を得るため」では、ワイドショーに対する信頼性が有意水準0.1%、ワイドショーに対する好意/習慣が有意水準1%、ニュースに対する信頼性が有意水準5%でそれぞれ高かった。「あこがれのタレントやスポーツ選手を見るため」では、ワイドショーに対する好意/習慣が有意水準1%、ワイドショーに対する信頼性が有意水準5%で高く、ニュースに対する信頼性が有意水準10%で高い傾向が見られた。そして、ワイドショーに対する好意/習慣のみに有意差または有意差のある傾向が見られた理由は「気分転換のため」、「暇つぶしのため」であり、いずれもこの理由で視聴する者の方がそうでない者よりもワイドショーに対する好意/習慣が高かった。「気分転換のため」では有意水準0.1%、「暇つぶしのため」では有意水準5%で高くなっていった。それ以外の理由では、「ワクワクドキドキする気分を味わうため」の場合、この理由で視聴する者の方がそうでない者に比べ、ワイドショーに対する信頼性、好意/習慣がそれぞれ有意水準1%、5%で高かった。また、「人の生き方について考えるため」では、この理由で視聴する者の方がそうでない者に比べ、ワイドショーに対する信頼性が有意水準5%で高かった。「自分の行動のモデルを得るため」を理由とする者とそうでない者との間では、有意差の見られる項目はなかった。

表10 視聴理由によるニュース/ワイドショーに対するリアリティ知覚の平均値(SD)

	世の中を知る		くつろぎ楽しむ		知識や教養		友達つきあい	
	有(n=310)	無(n=100)	有(n=320)	無(n=90)	有(n=122)	無(n=287)	有(n=24)	無(n=383)
ニュース信頼	11.65(3.46)	11.81(3.61)	12.08(3.57)	10.35(2.80)	11.81(3.70)	11.64(3.41)	13.04(4.12)	11.60(3.44)
ニュース好意	11.41(2.18)	9.33(2.51)	11.01(2.36)	10.50(2.70)	11.95(2.16)	10.45(2.42)	11.16(2.17)	10.88(2.46)
ワイド信頼	9.35(3.78)	9.61(3.53)	9.83(3.75)	7.98(3.21)	9.68(4.06)	9.30(3.56)	11.96(5.02)	9.25(3.56)
ワイド好意	8.85(3.05)	8.45(3.16)	9.15(3.00)	7.40(2.95)	9.05(3.21)	8.63(3.02)	10.46(2.59)	8.65(3.08)

(表10 続き)

	気分転換		暇つぶし		あこがれのタレント		ドキドキワクワク	
	有(n=126)	無(n=284)	有(n=264)	無(n=146)	有(n=104)	無(n=306)	有(n=52)	無(n=358)
ニュース信頼	11.77(3.19)	11.65(3.62)	11.72(3.45)	11.62(3.58)	12.25(3.54)	11.50(3.47)	12.23(3.67)	11.61(3.47)
ニュース好意	10.67(2.48)	11.00(2.42)	10.98(2.32)	10.76(2.64)	11.13(2.31)	10.82(2.48)	10.92(2.53)	10.90(2.43)
ワイド信頼	9.79(3.56)	9.24(3.77)	9.40(3.58)	9.43(3.96)	10.09(3.97)	9.18(3.60)	10.69(4.46)	9.22(3.56)
ワイド好意	9.27(3.01)	8.52(3.09)	9.14(3.06)	8.04(3.00)	9.59(3.07)	8.47(3.04)	9.56(3.10)	8.64(3.06)

(表10 続き)

	家族との交流		行動のモデル		人の生き方		その他	
	有(n=17)	無(n=393)	有(n=11)	無(n=399)	有(n=32)	無(n=378)	有(n=24)	無(n=386)
ニュース信頼	12.94(4.01)	11.63(3.47)	12.72(4.13)	11.66(3.48)	12.13(3.50)	11.65(3.50)	10.50(3.46)	11.76(3.49)
ニュース好意	12.25(1.44)	10.84(2.45)	10.73(2.72)	10.90(2.43)	11.38(2.15)	10.86(2.46)	9.83(2.58)	10.97(2.42)
ワイド信頼	10.76(6.19)	9.35(3.57)	10.91(4.04)	9.37(3.70)	10.78(4.05)	9.29(3.67)	7.54(2.77)	9.53(3.74)
ワイド好意	8.65(3.06)	8.76(3.08)	9.18(3.46)	8.74(3.07)	9.66(3.46)	8.68(3.04)	7.21(2.84)	8.85(3.07)

考 察

(1) ニュース及びワイドショーに対するリアリティ知覚尺度について

今回作成した10項目の尺度は、ニュース及びワイドショーいずれでも2因子が抽出され、因子を構成する項目も同一であった。従って、この尺度はこのようなフィクションでない番組に対するリアリティ知覚を測定する尺度として有効であろう。しかし、後述のように、今回の尺度の高得点者は、必ずしもニュースやワイドショーの高視聴者ではなかった。そのため、ここで測定された「リアリティ」は、テレビ視聴により直接学習されたものではなく、他の経験などから間接的に形成された漠然としたイメージに近いと考えられる。今後、この尺度を利用してリアリティ知覚を測定する場合には、この点を十分に考慮に入れなければならない。また、リアリティ知覚の形成

の過程について、テレビ以外の要因を検討する必要もある。

(2) 全体的な犯罪被害の推定傾向について

今回の結果から、調査対象者の犯罪被害の推定は著しく現実から隔たったものではないことが示唆された。犯罪件数を学習する機会、意識的に調べない限りあまりないことを考えると、このような結果が得られたことは興味深い。他方、どの最頻値も4割を超えておらず、また極端に過剰または過少評価をする人も少なからず存在した。従って、このような現実とのずれが生じる過程を明らかにすべく、個人的属性や情報収集活動の方法などを検討してみることも重要だろう。

(3) 犯罪被害推定に及ぼすテレビ視聴及びリアリティ知覚の影響について

今回の結果では、ニュースに対する信頼性

が高いほど犯罪被害を低く見積もるという傾向が一貫して見られた。この結果は、Potter (1986) や山下 (2001, 2003) でも見られている傾向と一致していた。しかし、テレビに対するリアリティが高いと犯罪被害を低く見積もるという一見矛盾する結果がなぜ得られるのかについては、これまでの研究では明らかにされてこなかった。今回の分析では、その点を明らかにすべく、ニュース以外のジャンルの視聴傾向やテレビ視聴の理由とニュースに対する信頼性との関係や犯罪被害推定との関係についても検討を行った。その結果、ニュースに対する信頼性はニュースの長時間視聴や習慣的視聴、ニュースに対する好意とは関係ないことがわかった。むしろ、いわゆるトレンドドラマや音楽番組、バラエティといったフィクションや娯楽番組の愛好者の間でニュースに対する信頼性が高く、ニュースに対する信頼性がニュースの長時間視聴により培養されたものではないことが示唆された。さらに、ニュースに対する信頼性が低いの方が犯罪被害を低く見積もるという傾向は、現代劇や音楽番組の視聴者、バラエティの低視聴者の間で強く見られる傾向であり、ニュースにおける犯罪被害の報道量は、現代劇の視聴者、バラエティの高視聴者で、過剰であると認知されていた。

この結果から、以下のことが推測される。第一に、ニュースに対する信頼性はニュースの長時間視聴により高まるのではなく、ニュース以外の娯楽番組の愛好者が抱いているであろう「お堅い番組は正確」といったイメージによって高められているかもしれない。第二に、現代劇の視聴者でニュースに対する信頼性が高い人が犯罪被害を低く見積もるのは、このような人はニュースをあまり視聴せ

ず、そのためニュースによる培養効果が小さいためと考えられる。第三に、バラエティの低視聴者でニュースに対する信頼性が高い人が犯罪被害を低く見積もるのも、同様のことがいえる。バラエティは、調査対象者となった学生では全く視聴していない人がほとんどおらず、このジャンルの視聴時間が短い人はテレビ視聴時間そのものが短いと思われる。また、バラエティの視聴時間とニュース/ワイドショー/ドキュメンタリーの視聴時間との相関は.455と非常に高い。従って、バラエティの低視聴者はニュースもあまり視聴せず、ニュースによる培養効果も小さいのではないかと考えられる。ただし、音楽番組ではこのような傾向が見られないことや、現代劇、バラエティの視聴によりニュースにおける犯罪被害の報道量を過剰に推定する傾向が見られたことは、上記の推測とやや矛盾する。この点については、今後さらなる検討が必要である。

また、実際にニュースをあまり視聴していない人は、現時点ではニュースによる培養効果は小さいものの、ニュースに対する信頼性が高いため、大事件や大事故など一時に集中砲火的な報道に接触した場合に、よりその影響を受けやすい可能性もあるだろう。

(4) テレビ視聴の理由と犯罪被害の推定/リアリティ知覚について

今回の結果では、テレビ視聴の理由により、犯罪被害の推定に差が見られる傾向が認められた。全般的には、世の中の出来事を知るためテレビを視聴する人は、犯罪被害を低く見積もり、暇つぶしや家族との交流のためにテレビを視聴する人は、犯罪被害を高く見積もる傾向があった。このことは、テレビ視聴の

理由により、テレビから得ている情報が異なることを示している。世の中の出来事を知るためにテレビを視聴する人は、テレビから正確な情報を入手しようと試みていると考えられる。そのため、ニュースなどで報道されている犯罪被害の量を鵜呑みにせず、割り引いて推定することが可能ではないかと考えられる。一方、暇つぶしや家族との交流のためにテレビを視聴する人は、テレビを積極的に視聴しているとは考えにくい。そのため、ニュースで報道される情報を精査することなく受け入れている可能性が高い。その結果、ニュースで多く報道される犯罪被害を高く見積もるようになると考えられる。

実際、テレビ視聴の理由によりニュースやワイドショーに対する信頼性や好意/習慣も大きく異なっていた。上述の「世の中の出来事を知るため」や「家族との交流のため」、そして「知識や教養を身につけるため」にテレビ視聴をする人は、ニュースを好み、習慣的に視聴している一方、それに対する信頼性は必ずしも高くなかった。また、ワイドショーに対する信頼性も、好意や習慣も高くなかった。他方、「友達づきあいの情報を得るため」や「あこがれのタレントやスポーツ選手を見るため」にテレビ視聴をする人は、ニュースを好んだり習慣的に視聴したりしない一方、ニュースやワイドショーに対する信頼性は高く、ワイドショーを好んだり習慣的に視聴したりしていた。このように、テレビ視聴の理由は、ニュースやワイドショーといった情報系の番組に対するイメージの形成や視聴態度にも影響を及ぼしているといえる。

(5) 今後の課題

最後に、上記の考察をもとに、今後の課題

を二点あげておきたい。第一に、リアリティ知覚の内容である。これは山下（2003）でも課題とされたが、尺度項目が真の意味での「リアリティ」を測定できているか否かはやはり疑問が残る。特に、今回の場合、尺度の高得点者は、ニュースやワイドショーを視聴した上で「リアリティ」を実感しているわけではなく、おそらくその他の要因により得られたイメージによって「たぶんリアルだろう」と推測していたと考えられる。今後の研究では、培養効果を媒介すると考えられる「実感されているリアリティ」をどのように測定していくか、尺度項目の洗練のみならず、実験法など他の手法による測定も行う必要があるだろう。しかし、視聴はしていないが「リアルだろう」と推測している人は、別の意味での「リアリティ」を抱いているとも考えられる。そして、このような人は実際に視聴した場合に批判的に視聴する能力が欠如していることも考えられる。その点についても、今後の研究で検討したいと考えられる。

第二に、犯罪被害の推定に及ぼす他の要因の影響についてである。今回は、テレビ視聴の影響を検討することを第一目的としたため、テレビ視聴以外のメディア接触行動や情報収集活動について、一切質問を行わなかった。しかし、今回の調査対象者となった大学生は、日本の全人口のうち、テレビ視聴時間が余暇時間に占める割合がもっとも小さい年代であり、他のメディア接触行動や対人活動も活発である。従って、このような犯罪被害の件数を推定する際、他の情報源からの情報が重要な役割を担っている可能性もある。実際、今回の結果でも、犯罪被害の推定にテレビの総視聴量やニュースの視聴量はほとんど関係がなかった。従って、今後の研究では、テレビ

視聴の影響に加えて、それ以外の要因についても検討を行っていきたい。それにより人の「準統計感覚」の獲得の過程や、推測のずれを生み出す個人的属性や情報処理の過程などを明らかにしたいと考える。

注

注1) 実際の発生件数は、殺人1396、強盗6981、強姦2357、交通事故947993、暴力事件19442、放火1830、児童虐待23738、少年犯罪全体202417、少年による強盗1611、少年による殺人83である（平成14年、交通事故のみ平成15年）。

引用・参考文献

- Gerbner, G., Gross, L., Jackson-beck, M., Jeffries-Fox, S., & Signorielli, N. (1978) Cultural indicators: Violence profile no.9. *Journal of Communication*, 28(3), 176-207.
- Gerbner, G., Gross, L., Morgan, M., & Signorielli, N. (1980) The "mainstreaming" of America: Violence profile no.11. *Journal of Communication*, 30(3), 10-29.
- Greenberg, B. S. (1988) Some uncommon television images and the drench hypothesis. In S. Oskamp (Eds.) *Television as a social issue: Applied Social Psychology Annual (Vol. 8)*, Newbury Park, CA: Sage.
- 萩原 滋 (2002) テレビを中心とする大学生のメディア利用状況 (2001) 首都圏7大学での調査結果の報告 *メディア・コミュニケーション*, 52, 157-178.
- 中村 功 (1999) テレビにおける暴力 - その実態と培養効果 *マス・コミュニケーション研究* No.55, pp.186-201.
- Potter, W. J. (1986) Perceived reality in television and the cultivation hypothesis. *Journal of Broadcasting and Electric Media*, 30(2), 159-174.
- Potter, W. J. (1988) Perceived reality in television effects research. *Journal of Broadcasting and Electronic Media*, 32(1), 23-41.
- 斉藤慎一 (1992) 培養理論再考 *新聞学評論* No.41, 170-183.
- 斉藤慎一 (2002) テレビと現実認識 - 培養理論の新たな展開を目指して *マス・コミュニケーション研究* No.60, 19-43.
- 山下玲子 (2001) テレビの視聴量とテレビにおけるリアリティの知覚が日本人若者の世界観に及ぼす影響について 札幌国際大学地域総合研究センター TECHNICAL REPORT 43.
- 山下玲子 (2003) テレビニュースに対するリアリティ知覚が大学生の世界観に及ぼす影響について 埼玉学園大学紀要 人間学部篇 第3号 127-139.
- 平成15年版 犯罪白書のあらまし 法務総合研究所 ホームページ
- 平成16年版 交通安全白書 内閣府共生社会生活統括官ホームページ (交通安全対策)